

令和 7 年 3 月 吉日

世田谷区立芦花小学校
校長 石田 孝士 様

世田谷区立芦花小学校
学校関係者評価委員会
委員長 柴田 薫

令和 6 年度 世田谷区立芦花小学校 学校関係者評価 報告書

世田谷区立芦花小学校学校関係者評価委員会では、令和 6 年度学校関係者等の評価アンケート結果ならびに学校自己評価報告書、授業や行事の参観、先生方との懇談などをもとに、令和 6 年度の評価報告書を作成しましたので、ここに報告いたします。

今年度の学校経営方針は、「地域とともに豊かな人間関係を築き、一人一人の子どもが自己実現できる」学校をめざして進めてこられました。石田校長先生のリーダーシップのもと、子どもたちが 1 年間充実した学校生活を過ごすことができたことを、当委員会は高く評価しています。

更なる教育活動の充実を目指し、本報告書を令和 7 年度の学校運営にお役立てくださいよう、お願いいたします。

I 学校関係者等アンケート結果について

以下の通り、今年度の学校関係者等アンケートを実施しました。結果の詳細は、学校ホームページ掲載の学校関係者等アンケート結果報告をご参照ください。

(1)調査実施期間:令和 6 年 11 月 13 日(水) ~11 月 27 日(水)

(2)回収方法:電子(地域のみ 郵送・持参あり)

(3)対象者及び回収状況:

	対象者数	回収数	回収率
児童(5・6 年生)	335	335	100.0%
保護者(全学年)	1,051	775	73.7%
地域(学校協議会構成委員)	84	40	46.6%

児童の回収率は、先生方の努力もあり 100%となった。保護者の回収率は、昨年度同様に提出件数を把握できるようになり、調査実施期間中に提出を促したこと、アンケート入力後に「学校-家庭-地域をつなぐ連絡システム『すぐーる』」から、提出受付の連絡が届くようになったことが功を奏して、令和 5 年度は 62.6%だったが、今年度は 73.7%となった。地域の対象者は 20%減となった。

(4)調査項目:

前年度と同じ様に世田谷区共通の 68 項目(児童対象:21 項目・保護者対象:33 項目・地域対象:14 項目)に、本校独自の 24 項目(児童:10 項目・保護者:10 項目・地域:4 項目)を加え、計 92 項目の調査を行った。

独自項目には、今年度の学校経営方針を反映した内容を加えた。また、芦花小学校学校運営委員会が実施している『あいさつキャンペーン』に関する項目は、前年度の比較を行うために、今年度も文言の変更は行わなかった。児童向け調査については、今年度も世田谷区が調査対象としている5年生及び6年生のみを対象に行った。

評価アンケート集計結果については、添付した別紙報告のとおりである。

II 重点目標の成果評価

今年度は、「地域とともに豊かな人間関係を築き、一人一人の子どもが自己実現できる」学校をめざしてという方針から、(1)子どものための学校、(2)教員が「プロ」として互いに高め合う学校、(3)地域・保護者と協力して連携する学校、(4)「キャリア・未来デザイン教育」の推進(「せたがや探究的な学び」、「キャリア教育」の推進)、(5)危機の予測・回避・管理の 5 つの重点目標をかかげ、進められた。

(1)子どものための学校

保護者アンケートでは、学習・生活・学校行事等「子どもたちのための学校」としての評価は、昨年度より継続しておおむね肯定的である。また、学校自己評価報告書でも、「地・徳・体のバランスがどれ、それぞれが思い描く未来を実現できる児童の教育に取り組んでいる」は、ほとんどの教員が肯定的に回答していた。児童アンケート及び保護者アンケートにおいて、「先生」に関する設問では、肯定的意見が多いことからも、先生方が重点目標に取り組まれていることは、児童にも届いていることが今年度も読み取れました。

○縦割り班活動「芦花っ子タイム」は、取り組み 3 年目となり、学期 1 回のロングと月 1 回ショートと時間を分けて開催したと報告された。学校自己評価報告書ではこの取り組みに対して回数を増やしたり、1 班当たりの人数を少なくしたりすることで児童同士の関係を深めることができたとの報告があったが、児童アンケートの「私は、芦花っ子タイムを楽しみにしている」では、5 年生(51.8%、前年度 76.3%)・6 年生(56.3%、前年度 75.0%)と否定的意見が増えた結果となった。今後の課題として、子どもたちの意見や思いも取り入れながら活動に役立てていただきたい。

その他、代表委員会「芦花ラス会議」、放課後学習支援教室「寺子屋クラブ」、「体力向上の取組」でも芦花小学校独自の取り組みとして子どもたちが意欲的に活動に参加していると報告された。

(2)教員が「プロ」として互いに高め合う学校

今年度の「校内研究」では、3 年目の特別活動として、今年度も研究主題を「互いのよさを認め合う児童の育成～主体性を育てる学級活動を通して～」を今年度も研究主題に行ったと報告された。また、継続して学年に合わせた目標や方法を決め、指導の工夫を行いながら、年 7 回の研究発表授業が実施さ

れ、子どもたちが自主的に活動に参加できるように進めることができたとの報告があった。今年度の研究成果を基に、次年度に向けて継続し、進めていっていただきたい。

(3) 地域・保護者と協力して、連携する学校

○「年間通したあいさつ運動の実施」では、あいさつキャンペーン週間を行い、保護者や芦花わんわんパトロール登録のワンちゃん、地域の方々の参加もあり、実施されている。6年生が先頭になって、地域の方々と校門に並び、また、芦花中学校の生徒も参加して校門などで挨拶を交わす様子を見て、芦花小学校・芦花中学校独自の取り組みとなっているように思う。また、「あいさつカード」を活用したふりかえりも行っているとの報告があった。今後も継続して学校・保護者・地域が一体となって、「いつでも、みんなであいさつする」芦花小学校であり、「人との関わりを大切にできる」芦花の子どもたちの育成をお願いしたい。

○「地域運営学校」では、学校支援コーディネーターと教員とで4月に交流することで、年間の予定が立てやすくなったとの報告があった。近隣の保育園・幼稚園との昔遊び交流会(1年生)、芦花公園花の丘活動(2年生)、地域安全マップ作り(3年生)、落語ワークショップ(4年生)、米作りや弁護士によるいじめ防止講話(5年生)、リアル職業調べや水俣第一小学校との交流(6年生)など、地域の一員として子ども一人ひとりが活躍できる場として、学校と地域が連携した活動の継続に今後も期待する。

○「学校運営委員会」については、自己評価報告書でも「本校では、学校運営委員会の活動について十分な情報が提供されている」において、肯定的回答が継続して98.0%となった。職員会議で情報提供されているとのことで、より身近に感じられていると思う。さらに「サマーワークショップ」等の学校運営委員会事業に先生方も参加されたと報告された。今後もPTA・地域との連携を強化していただきたい。

(4)『キャリア・未来デザイン教育』(せたがや探究的な学び)の推進

○「教育課程」では、限られた時間の有効的な使い方が課題となっている中、継続して行われている4年生以上の国語のモジュール学習の実施、および3年生以下の読書について報告された。また、週1回は「学級の時間」を設定されたことの報告があった。子どもたちが進んで参加できる学級の時間として、今後も継続していただきたい。

○「学習指導」では、全児童にタブレット端末が導入されて5年目となり、日常的に授業で使用されている様子が報告された。ICT担当職員からの職員研修も行われ、児童が使いこなせるような指導やインターネットの使い方のルールなどの指導もしっかりとされていると報告された。現在、ロイロノート、Teams、Qubenaは、小学校だけでなく、中学校や高等学校でも使用されるようになってきているが、児童への指導にとどまらず、設定やメンテナンス等に関する保護者へのフォローも継続的にお願いしたい。

○「芦花の学び舎」による学校運営では、今年度も一体型校舎だからできる交流活動が実施されたと報告された。小中合同集会では、児童・生徒1300人が校庭でゲームを実施したとの報告もあり、広い校庭を活用した活動ができたことは喜ばしい。

その他、「生活指導」では、本校の小・中施設一体型校舎の利点を生かした「ノーチャイムの学校生活

により、「時間を守って生活を送る」ことを、今年度も継続していると報告された。「学校行事」では、子どもたちにとって、芦花小学校生活の思い出のひとつとして残るよう、様々な行事を進めていただいた。「キャリア教育」の推進では、「キャリア・パスポート」の活用など、クラスだけでなく学年や学校全体で取り組んでいることを、全保護者、地域にも発信を行い、今後も取り組みを続けていただきたい。

おわりに…

今年度の芦花小学校学校関係者等アンケートは、結果として昨年度と同様、総じて肯定的な意見が得られ、学校施策に対する信頼と理解が、年々深まっていることが分かった。今後も、この水準を維持していただくことを願い、そのためにも、これまでの活動を継続・強化するとともに、新たな試みについても取り組んでいただくこと、さらに学校生活を安全に楽しく豊かに過ごせるようにご尽力いただきたい。

最後に、子どもたちへの更なるきめ細やかな指導・気配りを継続するためには、保護者・地域の協力が、今後も不可欠である。石田校長先生の下、先生方が一丸となって教育活動を推進できるよう取り組んでいただき、芦花小学校の子どもたち全員が、これからも愉快な学校生活を過ごすことのできるよう、保護者・地域としても積極的に協力し、応援していきたいと思う。

以上

令和6年度 学校関係者評価アンケート集計結果

I. 学校関係者評価アンケート

1. アンケートの集計方法

回収したアンケートは、対象及び設問ごとに単純集計した。各設問の評価項目「とても思う」、「思う」、「あまり思わない」、「思わない」、「わからない」の 5 項目のうち、「とても思う」と「思う」を「肯定的意見」として、「あまり思わない」と「思わない」を「否定的意見」として加算集計し、「わからない」及び「無回答」は「不明」として集計した。

II. 児童による評価結果(表1・表2)

全 31 項目のうち、肯定的意見が 80%以上だった設問項目は 20 項目、否定的意見が 20%以上だった設問項目は 6 項目(昨年度は 8 項目)、不明が 20%以上だった設問項目は 1 項目であった。

肯定的意見が 80%以上だった内容は、学習に関する5項目全て、生活指導 2 項目、学校行事 3 項目全て、キャリア教育に関する 1 項目、教員に関する 2 項目全てに加え、「学校生活は楽しい」「学校が好き」の2項目及び学校独自に設定した 10 項目のうち、「タブレットを使った授業で、『できた』『わかった』と思えることが増えた」、「友達を大切にしている」、「家族は私の話をよく聞いてくれる」、「芦花の町の人たちが授業や行事を支えてくださっていることを知っている」、「学級会をしてみんなで決めたことを実現するのが楽しい」の5項目であった。肯定的意見が90%を超えた項目は、「先生に注意されたことは、理解できる」、「私は、友達を大切にしている」、「学校行事は楽しい」、「先生たちは、ていねいに指導してくれる」、「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」、「学校生活は楽しい」であった。

否定的意見が 20%以上だった内容は、「芦花っ子タイムを楽しみにしている」、「区立中学校に関する情報が提供されている」、「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」、「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」、「塾で学習している」、「自分からあいさつしている」の 6 項目であった。なお、不明が 20%以上だった設問項目は「区立中学校に関する情報が提供されている」であった。

令和 5 年度の調査結果との比較において、変化を認めた項目は、次の 2 項目であった。「私は芦花っ子タイムを楽しみにしている」では、令和 6 年度は令和 5 年度よりも、肯定的意見が 24.1 ポイント低く、否定的意見が 23 ポイント高く、不明が 1.6 ポイント低くなった。「区立中学校に関する情報が提供されている。」は、肯定的意見ポイントに変化はないが、否定的意見ポイントが令和 5 年度より 12.1 ポイントが高くなった。また、昨年度否定的意見が 20%以上であったが、今年度は 20%以下となった項目は、「家庭で宿題や e ランニング学習をしている」、「自らすすんで授業に参加している」であった。

III. 保護者による評価結果(表3・4)

全 43 項目のうち、肯定的意見が 80%以上だった設問項目は 21項目であった。否定的 意見が

20%以上だった設問項目は8項目(昨年度は 11項目)であった。不明と回答された設問項目のうち 20%以上は8項目(昨年度は 5 項目)であった。

肯定的意見が 80%以上だった内容は、学習指導4項目のうち 1 項目、生活指導2項目のうち1項目、学校行事 3 項目全て、教職員に関する2項目のうちの1項目、全般5項目のうちの1項目、学校からの情報提供4項目のうちの3項目、学校運営2項目のうちの1項目、家庭と学校との連携に関する3項目のうちの1 項目、学校の安全性3項目の全項目及び学校独自に設定した 10 項目のうち、「自分の子どもは、基礎・基本の学力が身に付いている」「自分の子どもは、体を動かすことが好きである」「自分の子どもは、学校のある芦花の町が好きである」、「自分の子どもには、誇らしく思えるところがある」、「保護者・地域が授業や行事への参観・協力することで、子どもの教育環境がよりよくなっている」、「芦花小学校は、あいさつキャンペーンなど子どもと大人がふれあう活動に力を入れている」の6項目であった。肯定的意見が90%を超えた項目は、「自分の子どもには、誇らしく思えるところがある」、「学校行事は、子どもにとって楽しい」、「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」、「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」、「学校行事は、子どもにとって達成感がある」であった。

否定的意見が 40%以上だった内容は、学校独自項目の「自分の子どもは、家で本を読んでいる」であった。否定的意見が30%以上 40%未満は、「私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」、「子どもは、家庭で自主的に学習をしている」、「『学び舎』の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている」、「私は、今年度の学校重点目標を理解している」、「自分の子どもは、毎日すすんであいさつをしている」の 5 項目であった。20%以上 30%未満は、「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」、「自分の子どもには、地域に言葉を交わせる顔見知りがいる」の 2 項目であった。

不明が 30%以上 40%未満の項目は、地域との連携に関する項目の「本校は、地域に情報を提供している」、キャリア教育に関する項目の「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」であった。不明が 20%以上 30%未満の項目は「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」、「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。」であり、学校からの情報提供に関する項目の『学び舎』の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている」、「私は、今年度の学校重点目標を理解している」、「本校は、地域の活動などに協力的である」、「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている」であった。

令和 5 年度の調査結果との比較において、大きな変化がみられた項目はなかった。令和 5 年の質問項目『脱ワンワード』の取り組みを通じて、子どもと大人のコミュニケーションがとれている」を、令和 6 年度は「子どもと大人のコミュニケーションがとれている」に変更した影響として、令和 5 年度は肯定的意見が 51.8%。否定的意見が 36.7%、不明が 11.5%だったが、令和 6 年度は肯定的意見が 77.6%。否定的意見 8.8%、不明 13.7%となった。

IV. 地域関係者による評価結果(表 5・6)

全 18 項目のうち、肯定的意見が 80%以上だった設問項目は 11 項目(昨年度は9項目)であった。否定的意見が 20%以上だった設問項目は 1 項目、不明と回答された設問項目のうち 20%以上は、1項目

(昨年度は 2 項目)であった。

肯定的意見が 90% 以上だった項目は、割合の高い順に、「学校行事の内容は充実している」、「学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる」、「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」、「学校の活動や交流に関わる機会があれば、参加したいと思う」、「芦花小学校は、サマーワークショップ・あいさつキャンペーンなど大人と子どもがふれあう活動に力を入れている」であった。肯定的意見が 80% 以上 90% 未満だった項目は、「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」、「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる」、「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」、「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」、「学校の重点目標が明確である」、「『学び舎』の活動について、情報が提供されている」、「地域の人や施設を教育活動に活かしている」であった。

否定的意見が 20% 以上だった項目は、「芦花小学校の子どもたちは、地域の方々とあいさつをしている」であった。不明が 20% 以上だった項目は、「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」であった。

令和 5 年度の調査結果との比較において、肯定的評価が 10% 以上多くなった項目は、「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」、「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」、「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」、「芦花小学校は、サマーワークショップ・あいさつキャンペーンなど大人と子どもがふれあう活動に力を入れている」であった。一方、不明の評価が多くなった項目は、「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」であった(令和 6 年度は令和 5 年度よりも、肯定的意見が 10.6 ポイント低く、否定的意見は 1% 高く、不明が 9.6 ポイント高くなかった。)

以上